６．北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・中旬に店内を改装したことに加え、携帯電話の新機種を発売したため、来客数が極端に増えている。
	やや良くなっている	一般小売店［鮮魚］（従業員）	お客様の様子	・能登半島地震から半年以上が経過し、多くの取引先では集客努力の効果が出始め、一時の悲壮感はなくなっている。しかし、一部の取引先では依然低迷が続いており、優劣がはっきりしてきた。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・気温の低下もあり、手袋やマフラーなどが例年に比べ、かなり売れている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今年は前年より寒さが早く来たため、タクシーの利用客が増えた。また、郊外に２つの大型ショッピングセンターがオープンしたことや大きな学会の開催があったため、客の動きは良かった。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・両親と一緒に住宅展示場へ来る客が増えている。親からの金銭的援助が期待できるため、話がスムーズに進む。
	変わらない	スーパー（副店長）	単価の動き	・来客数は前年比98%、客単価は同102%である。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・来客数は前年に比べ４％増加しているが、客単価が大幅に落ち込んでいる。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・地方経済の回復感が乏しく、また車への関心度が希薄な状況では、ガソリン価格の天井知らずの高騰は大変厳しい逆風である。モーターショーでの需要喚起も上滑りしているように感じる。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・車の受注件数は前年に比べやや増加しているが、個人消費がはっきりと上昇に転じたかどうかの判断はまだ難しい。
		その他専門店［酒］（経営者）	販売量の動き	・個人の小売店はずっと景気の底をはっており、現状に慣らされてきた。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ランチについて、低価格商品をダイレクトメールや新聞広告でＰＲしたため、来客数が例年以上に増加したが、売上は横ばい状態である。平日のディナーは価格を下げることにより、来客数を確保するのが精一杯である。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・団体客の受注は例年並みだが、個人客の予約状況は例年よりも悪い。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊人数は前年比92.5%、売上は同96.4%、宿泊単価は同105.3%であった。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・レストラン利用客数の減少が続いているほか、レストランウェディングの受注件数も減少し、前年実績を大きく下回る見込みである。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・原油の値上げがバス料金に一部転嫁されている。客の旅行行動にブレーキが掛かることが懸念される。
		タクシー運転手	販売量の動き	・タクシー運賃の値上げが実施されたが、利用客数は変わらなかった。必要以上にタクシーに乗らないという態度が以前から定着しているためと思われる。
	やや悪くなっている	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・原油高騰や税金問題などで、客の消費は全体的にトーンダウンしており、通常の買物では購入金額を抑え気味にしている。ただし、客の上質志向は変わらず、商品によっては思い切った買物をするなど、お金の使い方にめりはりを付けている。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・仕入価格が上昇しているが、小売価格への転嫁がスムーズにいかない。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・天候の良かった前年に比べ、天候不順だった今年の11月は売上、来客数共に８％減少し、大変苦戦した。特に主力の米飯は前年比10%以上の減少となり、客の目は一層厳しくなっている。コンビニだけで売っている商品や、今、必要とする物だけしか購入せず、ついで買いが見られなくなった。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・ボージョレーヌーボーなどの登場でお酒の単価が上昇しているが、来客数は減少している。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・ガソリンを始め諸物価が値上がりしており、客は商品の購入に当たって非常に慎重になっている。

		家電量販店（店長）	来客数の動き	・11月は閑散月であるが、12月の歳末セールを期待しているためか、更なる買い控えが発生している。「壊れたから」、「どうしても必要になったから」という理由のほかは様子見の客が多く、財布のひもが固くなっている。原油高騰の影響もある。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・高額輸入車は性能も価値も高いがゆえに富裕層や熱烈なファンに支えられ、需要を維持してきた。しかし、高騰した燃料や高い諸税、保険料などから、ついにぜいたく品、ムダな商品との意識が客に芽生えつつある。
		自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・販促のチラシを投入しても、なかなか集客に結びつかない。ガソリン高騰により自動車関連の支出が圧迫されている。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・下旬にオープンした大型ショッピングセンター２店舗の影響か、上旬は低調に推移した。その後、若干戻ったものの人手不足の問題もあり、来客数は伸び悩んだ。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・現役の来客数が少なく、退職者や月２～３回の団体客でやっと息をついており、当店の売上は前年の９割程度に落ちている。サラリーマン客からは「会社の海外損失でボーナスがカットされる」、個人商店主からは「来客数が減少している」などの厳しい話が聞かれる。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・海外旅行の中でも、特に遠隔地の取扱が減少している。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・来月は冬商戦に合わせた新商品が発売されるため、それを待つ客が多い。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・３月の能登半島地震、７月の中越沖地震の風評被害の影響はいったん縮小したが、10～11月の利用客は前年比で10数パーセント減少した。減っている客層は個人、団体と全般にわたっている。
		パチンコ店（店員）	来客数の動き	・行政の指導により射幸心の高いスロットル機がすべて撤去され、客離れが激しい。パチンコ機へ移る客も少ない。遊技機の価格高騰も頭が痛い。
		その他レジャー施設（職員）	来客数の動き	・客は下旬に新規オープンした大型ショッピングセンターや入浴施設などに流れている。今後、更に分散しそうだ。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・住宅と土地の販売量が減少している。地元では持家率が高いため、客の需要も以前ほどはっきりしない。
	悪くなっている	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・月の後半からみぞれが降り、ようやく非ウールのコートが売れてきた。しかし、まだドライバーにとって動きやすいキルトのコートを買う人も多い。例年11月は苦戦する時期であるが、今年は来客数でも更に厳しく、婦人服全体の売上は前年の86%にとどまった。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・原材料の値上げに伴う小売価格の上昇に対し、特売価格への関心が異常に高まっている。
		住関連専門店（店長）	単価の動き	・客の動きも悪いが、客単価も上がらない。まとめ買いが少なく、だれもが慎重な買い方をしている。
企業動向関連	良くなっている	－	－	－
	やや良くなっている	○	○	○
	変わらない	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・原材料の値上げ要求が増えている。現状は今までどおりで推移しているが、これから影響が出る。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内市場の引き合いはあるものの、決定まで時間が掛かる。客も景気動向に不安を感じ、決断を渋っている模様である。
		電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・引き続き電子部品の受注が好調で、当社の稼働率は上がっている。ただし、ユーザー情報によると、業界全体ではそれほどでもない。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・下期において、新製品が集中する時期は一応ピークを過ぎた。眼鏡の受注量全体としてはここ数か月、ほぼ横ばいの状態が続いている。
	やや悪くなっている	食料品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・業界内では秋から一部商品の値上げが実施されているが、値上げ対象外の商品も含め全体的な動きは低調である。高付加価値使用材の動きも鈍い。

		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・住宅着工件数が低迷するなか、原材料の値上げも続いている。
		建設業（経営者）	取引先の様子	・公共工事におけるダンピング受注が相変わらず多く、コンサルタント工事では予定価格の40%以下での受注も見られる。建設業界全体に採算を度外視した低価格受注がまん延しており、これが下請業者へしわ寄せされている。
		輸送業（配車担当）	受注価格や販売価格の動き	・身の回りで商品の値上げが相次いでいるが、輸送運賃は値上げが出来ず、利益を圧迫している。
		新聞販売店［広告］（従業員）	受注量や販売量の動き	・折込チラシの取扱枚数、金額共に前年同月に比べ下回っている。
		税理士（所長）	取引先の様子	・取引先各社では、販売先の状況が不安定なため、設備投資や人員計画に対して慎重で、及び腰になっている。
	悪くなっている	建設業（総務担当）	それ以外	・建築基準法の改正により確認申請が滞り、一部で工事着工の遅れが顕在化している。さらに資材価格の上昇も加わり、厳しさが増している。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・建築着工件数の大幅減少、ガソリンや食料品を中心とした価格の上昇など、景気悪化の要因がはっきりと出てきた。
雇用関連	良くなっている	－	－	－
	やや良くなっている	－	－	－
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・12月の一時的多忙による求人件数は増えているものの、対応できる人材不足は続いている。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人は依然として堅調だが、ここに来て人材不足が深刻になってきた。
		学校［大学］（就職担当）	求人数の動き	・複数の内定を受けている学生が、いよいよ絞り込みにより企業を決めている。また、ＩＴ関連企業から長期にわたり求人が来ている。
	やや悪くなっている	新聞社［求人広告］（担当者）	それ以外	・原油高騰の影響は次第に高まり、各業種共に経費増から広告などを手控えるため、極めて厳しい。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・業績が悪いため、改善が望めない部門を縮小したり、廃止する企業が多い。
	悪くなっている	新聞社［求人広告］（担当者）	求人数の動き	・求人広告は前年同月比で25%以上減少している。